

第 4 回 枚方市景観懇話会 会議要録

日 時	平成 24 年 11 月 17 日 (土) 12:30~17:00
場 所	枚方市市民会館 1階 第3集会室
出席者	<p>【会員】</p> <p>(自然景観) 太田宏美、大橋憲一、島崎仁作、半明和夫、藤宗信子 三浦八千代</p> <p>(市街地景観) 岩橋康郎、金只英明、竹島健次、森川明、藤井由美</p> <p>(歴史景観) 上原一恵、奥本圭子、清水源久、宝田豊昭、田村正巳</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>(大阪府立大学 大学院) 下村泰彦教授</p> <p>【市役所】</p> <p>(都市整備部) 向井室長、河本課長、長谷川課長代理、木村主任</p> <p>【コンサルタント】</p> <p>(株式会社東京建設コンサルタント) 片山、田中勉、田中美</p>
欠席者	<p>【会員】</p> <p>(自然景観) 堀内義章</p> <p>(市街地景観) 横山かおり</p> <p>(歴史景観) 井上良子、大野賢</p>
内 容	<p>○会議要録の確認</p> <p>○グループ討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区の景観現況のスライド上映 ・スライドをもとにした意見交換、意見抽出 ・「景観特性評価マップ」の整理 <p>○グループ発表</p> <p>○講評</p>
資 料	<p>○次第</p> <p>○懇話会会員一覧</p> <p>○座席図</p> <p>○『第3回枚方市景観懇話会 会議要録』</p> <p>○資料1:「本日の進め方」</p> <p>○資料2:「景観現況写真集」</p> <p>○ご意見用紙</p>

【案件説明等】

- 第3回枚方市景観懇話会の議事要録は、会員各自が確認し、修正の必要がある場合は事務局に連絡するものとした。
- 雨天でまち歩きが中止となったため、事務局で事前に撮影したモデル地区の写真スライドの映写を行い、景観の現状を確認した。
- スライド上映で確認した内容をもとに、良い景観、阻害要素、眺望、景観特性などについて意見交換を行い、意見マップを作成した。
- 意見マップをもとに、重要な景観資源、眺望点・眺望対象、地点別景観特性などについて意見交換を行い、景観特性評価マップに取りまとめた。
- 意見交換の結果を踏まえ、次回の景観懇話会で具体的な景観改善方法を検討する場所の写真を5点程度選択した。
- 各グループの意見交換の内容をグループリーダーに発表していただいた。
- オブザーバーからグループ発表の内容について講評をいただいた。

【発言内容】

●グループ発表

○市街地景観グループ（市街地景観グループリーダー）

● 景観特性評価マップについて

- ・市街地部分は旧国道 1 号と京阪本線によって大きく三つの景観的な特徴がある区域に区分されることがわかった。
- ・旧国道 1 号の北側の区域はラポールひらかたや病院等が新しく建設された文化的な施設の景観の区域
- ・京阪本線と旧国道 1 号に挟まれた区域は歴史的な景観の区域
- ・京阪本線の南側（枚方市駅の南側一帯）の区域は官庁・オフィスビルなどが立地する景観の区域
- ・眺望としては、淀川河川敷の公園などへの眺望は広がりがあり、特に優れている
- ・京阪本線南側の道路に沿って整備されている「せせらぎ水路」が景観資源として重要である。
- ・枚方市駅からビオルネへの道は、道は狭いが賑わいあり、良い雰囲気である。
- ・市街地景観 G では、景観を良くするには建築物などのデザイン上の工夫なども重要であるが、樹木・植栽などによって景観を改善することについて意見が多く出た。

● 景観改善検討場所・写真の抽出結果について

①枚方市駅北側ロータリー

- ・駅を出て右側に緑のビル、左側にはピンク、クリーム色、黒など、様々な色彩のビルが立地しており、色彩のコントロールを行うことが必要と考えられる。
- ・植栽がほとんどなく、殺風景である。植栽を行うことで景観が改善できる。

②ビオルネ横の道路

- ・関西医大に向かって左側には植栽があり、右側には植栽がない。植栽を行うことで景観が改善される。
- ・右側では道路沿いにマンション建設が進められており、マンションの完成によって景観が変化すると考えられる。

③枚方市駅南側・旧三越前道路

- ・万年寺山のスカイラインを分断する看板が設置されており、看板の色の工夫（緑色にする。）などが考えられる。
- ・写真左端のデッキへのアクセス階段を撤去することで景観がスッキリする。

④枚方市駅南側ロータリー

- ・ロータリー部分やサンプラザ 1 号館前などに高木植栽を行うことで景観が良くなる。
- ・ロータリー中央の大きな看板が景観を阻害しており、撤去して植栽を行うことが必要と考えられる。

⑤枚方市駅南側・天津橋方面サンプラザ前

- ・殺風景であり、歩道に植栽を行うことが必要と考えられる。

○自然景観グループ（自然景観グループリーダー）

● 景観改善検討場所・写真の抽出結果について

①枚方公園駅南ロータリー

- ・枚方の主要な観光施設である「ひらかたパーク」等への玄関として案内板、ロータリー、道路を整備することが必要である。
- ・枚方公園駅から万年寺山へ直接アプローチするルート整備やサイン整備が必要。

②お茶屋御殿跡

- ・金属製の車止めを、周辺の景観やサインなどと調和するように木製へ変更したほうが良い。

③万年寺山からの眺望

- ・淀川への眺望が開け、良好な景観、眺望資源を備えていて良い。
- ・場所が分かりにくく、周辺との高低差が大きいため、行きやすさを補うための案内板等が必要。

④淀川河川敷の眺望・枚方大橋・水管橋

- ・連続するアーチの水管橋はいい景観であるが、背後の枚方大橋の景観が悪い。
- ・開放的でいい自然景観が残されており、守っていくことが必要。
- ・残念なことに河川敷には簡易トイレがあり臭くて汚いので良いものに改善していくと良くなる。

⑤天野川・禁野橋上流

- ・交野方面の山並みなどが美しい景観を有し、洪水から町を守る役割とともに枚方市民の憩いの場にもなっている。
- ・遊歩道や桜並木を連続させて延長すると更によくなる。春の花見などで賑わうようにする。
- ・左岸と右岸で構造が異なり、右岸はコンクリートで無機質、左岸は草があって良い。こうした構造も考えていくといい。

それぞれの場所で自然環境を守って、市民の憩いの場にしていきたい。

○歴史景観グループ（歴史景観グループリーダー）

● 景観特性評価マップについて

- ・京街道・枚方宿の検討を行った。区間が短く検討が難しかった。

● 景観改善検討場所・写真の抽出結果について

- ・阻害要因として以下のものがあげられる。

① 枚方宿

- ・ビオルネに設置されている看板が歴史景観に調和していない。難しいがどうかにならないか。

② 宗左の辻付近

- ・活気がある商店街の風景であるが、京街道の景観を考えると看板の色（特に赤い看板）などはどうかにならないか。

③ 新町付近

- ・電柱の状況 写真で見たところ電柱が林立しており、どうかにならないか。
- ・無電柱化できればいい。

④ 新町付近

- ・自販機が目立つ。ビオルネより西側では色彩に工夫（茶色など）がある。東側でも工夫が必要。

以上。4点が歴史景観グループで出た阻害要素である。

●講評

(オブザーバー)

● 景観特性評価マップの作成方法について

- ・今回はまち歩きが中止になりましたが、みなさんが仮に写真を撮ったものとする、写真を撮影した理由は、「いい風景」「悪い風景」「どうかしないとダメ」等の理由がある。その理由が評価であり、評価マップには理由を記載することが必要である。例えば、「木がある」「川がある」だけでなく、「景観が美しい」「広がりを感じる」「潤いを感じる」等を記載することで評価となる。評価を記載しないと現状マップになってしまう。
- ・現状マップと評価マップは同じようでも、評価が記載されているか、いないかで大きく異なる。
- ・同じ風景を見ても個人によって評価・考え方（美しい・美しくない。賑わいを感じる・感じない等）が異なる。人の数だけ評価の判断も異なるため、評価に関する意見交換をグループで行って評価マップに取りまとめることで、景観に関する評価を共有化できる。

● グループ発表について

- ・市街地グループでは、業務系の新しい市街地と、道幅の狭い商店街の境界の所の両方が良い。との意見があり、次の検討の題材になると思える。
- ・自然グループでは、万年寺山、淀川、天野川の話があった。河川景観では堤外地の自然を守ることが重要との指摘であった。河川空間は、堤防より川の流れ側を「堤外地」、私達の住んでいる側を「堤内地」、上流から下流に向かって右が「右岸」、左が「左岸」と呼ぶ。堤外地の水が流れていない平地を「高水敷」と呼ぶ。

- ・河川空間の景観では山並への眺望確保や周りの建物の見え方や形態なども検討の課題となる。
- ・歴史グループでは、電柱の地中化、自販機などの話があった。写真を確認すると自販機が焦げ茶色を採用しているところもあったが、更に、これを裏向きに設置する、空き缶入れの色も同色にする等、もう少しひと工夫を行うことが考えられる。特に、四つ角は街並み景観でも目立つ場所として重要であり配慮が必要である。
- ・ポストの色の変更、クーラーの室外機が目隠し、電話ボックス、街灯、電柱などのストリートファニチャーの色の配慮などを歴史的な街並みでは行うことが望ましい。今後の景観計画でも色の規制などは可能である。
- ・景観の写真を見て、良いところを見つけて、そこを伸ばしていく方向で景観を考え、良いとは言にくい景観の場合は修正の方向を考えることが必要である。こうした検討や判断をするのが、今回の現況調査の段階である。
- ・皆さんが今回の調査・検討の経験を活かして近所の町並みなどを対象に自治会等で検討を行っていききっかけづくりになれば良いと考えて本日の討議を行っていただいた。
- ・個々の景観に対しては色々な意見はあるが、グループ討議を踏まえて、一つの意見としてまとめあげたことは大きな成果といえる。

●質疑応答

- ・質問：スーパー堤防は今後、進められるのか？
- ・回答：・部分的には整備されたが、進み具合は緩やか、遅れ気味である。すぐには進められない。沿川の住宅などの移転などが必要であり、なかなか進まない。
- ・大阪府などでは、洪水防止の考え方を、床上浸水被害は防止し、床下浸水はある程度許容する方向で河川整備を行うようになっている。

以上